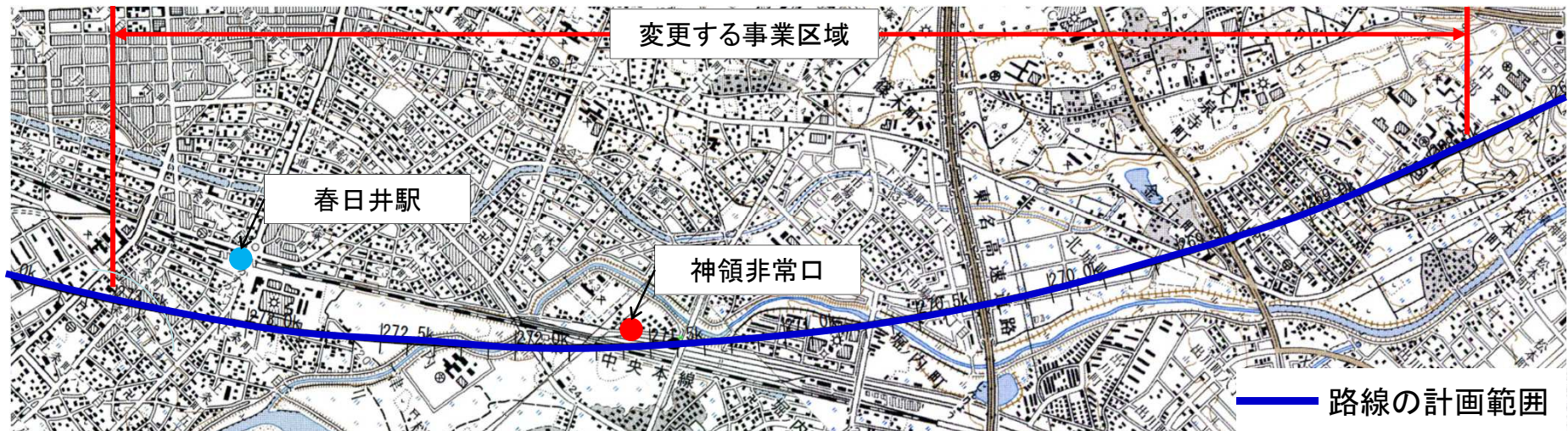


春日井市内における「事業区域の概要」からの変更理由について

平成29年10月
東海旅客鉄道株式会社

経緯

- ・春日井市内の神領非常口の設計を進めるにあたり、平成26年3月の事前の事業間調整以降、同非常口付近で詳細な地質調査を行ったところ、地下水の水位（水圧）が、これまでのデータを大幅に上回ることが確認された。
- ・こうした地下水の状況下で、平成26年3月に国土交通大臣に送付した事業概要書に記載した深さで非常口の工事を行うためには、鉄道（JR中央本線）近接の中、大規模な補助工法を行うことになるが、周辺への影響等が懸念されることから、非常口の深さを浅くする必要が生じた。
- ・具体的には、同非常口の底部は、薄く粘土層を挟んで被圧されている礫質土の直上に計画していたが、底部からの粘性土層の厚さを十分確保する（すなわち、同非常口を浅くする）ことで、安全に同非常口の工事を行うことが可能となる。



変更内容

- ・平成26年3月に国土交通大臣に送付した事業概要書に記載した神領非常口の深さを、約10m浅くする。
- ・本変更に伴い、前後の縦断線形を変更する。なお、変更にあたって、同非常口の品川方の亜炭の廃坑跡が想定される区域は、影響のないように深さ60mを確保することとし、これを踏まえ、縦断線形は品川方が最大5m深くなる一方で、名古屋方が最大12m浅くなる線形とした。

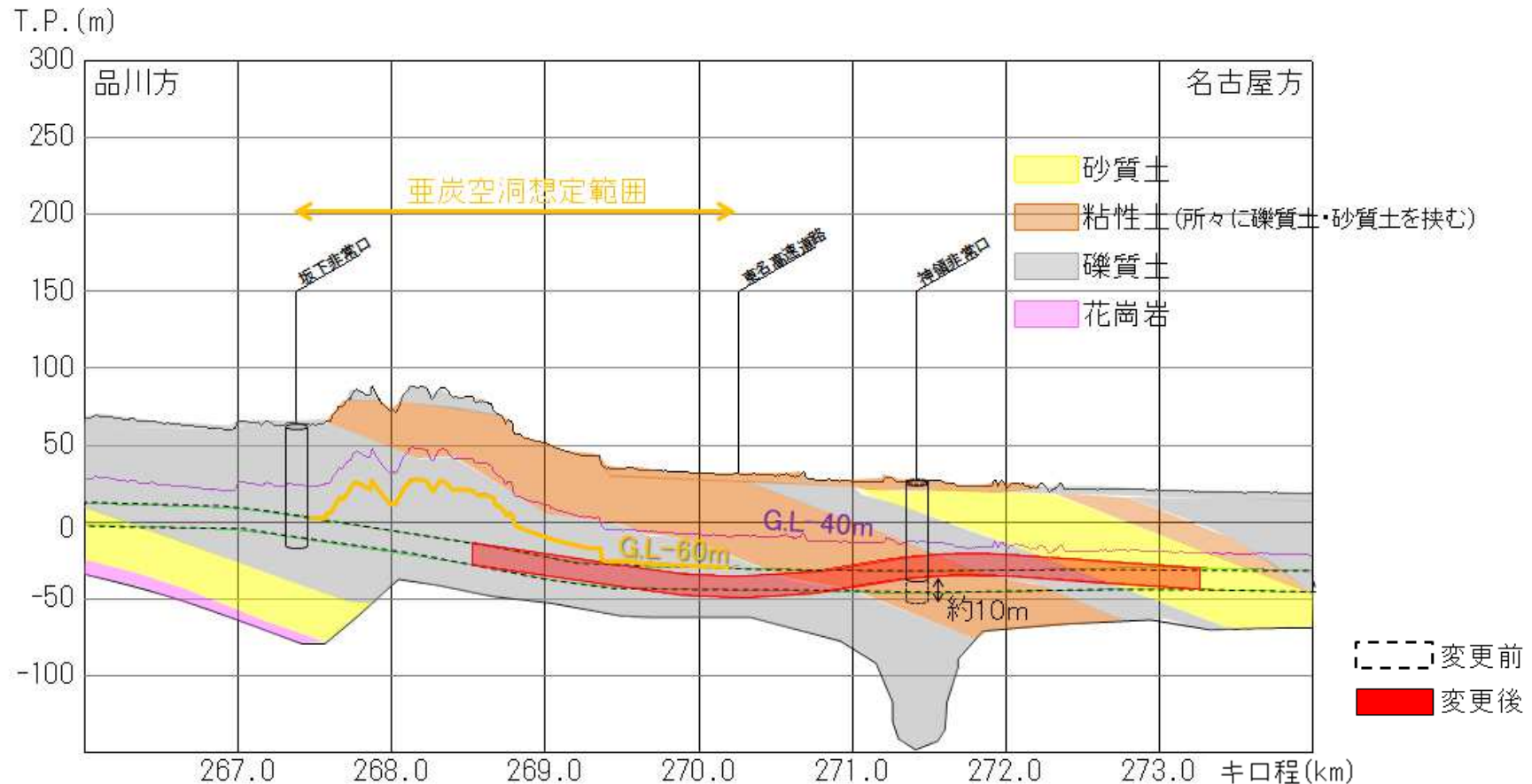


図 変更内容のイメージ